



平和首長会議

青少年「平和と交流」支援事業（HIROSHIMA and PEACE） 2016年8月  
報告書および平和活動案 アイブリン・オリアリー（マンチェスター市・英国）



広島の花火流し、2016年8月6日

## 概要

2016年5月、私は同年8月に広島市立大学で行われる平和首長会議「青少年『平和と交流』支援事業」にマンチェスター市を代表して参加する学生2人のうちの1人に選ばれました。選抜されたことを光栄に思い、とても興奮しましたが、先のことは全く予想が付きませんでした！日本を訪れたことは一度もなく、平和紛争研究の修士課程に進学していたものの、私の研究の焦点は日本に対する原爆投下でも、核軍縮と不拡散でもありませんでした。平和首長会議のプログラムはこの点を一変させました。広島市立大学の10日間のプログラムは驚くような学習体験となり、日本滞在は間違いなく私の人生で最高の時間の1つになりました。

## HIROSHIMA and PEACE : 新たな視点

広島市立大学の講座は、原子爆弾の歴史、そしてより一般的には核兵器・原子力に関する問題に、学問的、また個人的に関わる大変よい機会になりました。世界的な大学に所属する講師陣は、第二次世界大戦、日本史、原爆による韓国人犠牲者、福島とチェルノブイリ、国際刑事裁判制度、その他多数の多岐にわたるテーマについて講演しました。講師陣は、広島と長崎に対する爆撃、第二次大戦の犠牲者と加害者、そして1945年以降の核兵器開発について、多くの新しいさまざまな視点を与えてくださいました。

広島平和研究所のロバート・ジェイコブズ博士は、これらのテーマで素晴らしい講演を2回行いました。1回目では広島と長崎の原爆投下に至るまでの推移を解説し、2回目では核兵器および原子力の存在そのものにより人類が今後数十年間に直面することになる重大な結果について論じました。ジェイコブズ博士とブライアン・ハレット博士はともに、戦争終結を目的とした原爆の投下という主張に異議を唱え、代わりにアメリカの核兵器開発を煽った科学的進歩と軍事力という考察を明らかにしました。

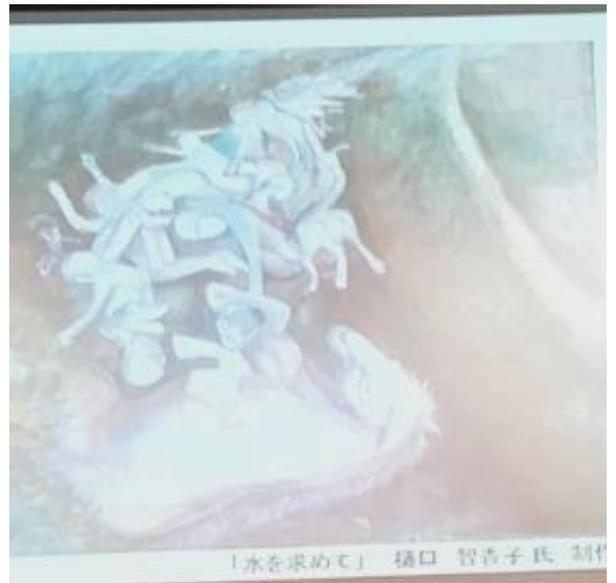
私は核兵器の軍縮および不拡散、そして原子力から環境に優しい形態のエネルギーへの転換を推進する世界的な市民社会の取組についても学びました。世界に広がる軍縮運動は、核兵器の非人道的な性質と恐ろしい人道上の結果を強調することにより核兵器を非合法化する試みに力を入れていますが、政治的には核兵器は核保有国にとって特権的、さらには重要性のしるしと見なされています。私たちはこうした先入観を核保有国の念頭から払拭し、代わりに別の安全保障システムを求めていく必要があります。

講座で最も印象に残ったのは、平和記念資料館の見学と、2人の日本人被爆者との面会です。原爆の恐怖に関する彼らの証言は、資料館にある証言と合わせて、忘れがたいものになりました。小倉桂子さんが描写する爆撃の「生き地獄」は資料館で生々しく再現されており、写真と模型で肉から垂れ下がる皮膚の痛み、そして識別不能なまでに焼けた遺体が示されていました。原爆投下後に被爆者がどれほど差別されたか、さらに生存者が長年にわたり就職はもとより結婚にさえ苦労したと聞いて驚き、胸が痛みました。また日本人以外の犠牲者がいたという事実が思いもよらなかったこともあり、韓国人被爆者のことを知って驚かされました。それでも、広島の犠牲者の10パーセントは実は韓国人だったのです。こうした話もまたきわめて悲しく、韓国人犠牲者の多くは戦時中に労働者として日本に連行されたのだからなおさらです。しかし被爆者との面会で最も感動したのは、その寛容さと体験談を語ることへの情熱であり、彼らはそうすることでこうした恐怖が二度と繰り返されないようにすることを願っているのです。こうした過去の受容は、オバマ大統領の訪問への態度に表れていました—ある被爆者は、オバマに謝罪は求めない、そして心から訪問を歓迎すると語りました。

上段左：1945年8月6日、原爆投下の爆心地の模型

下段左：2016年5月の広島訪問中に折り鶴を折るバラク・オバマ大統領を紹介する  
平和記念資料館の展示

右：体験談を語る日本人被爆者



日本での私の最も偉大な先生たちにホストファミリーがいます。ホストファミリーは私が出会った最も親切な人たちに数えられます。私を家族に迎え入れ、寿司の巻き方から太鼓まで日本の伝統と習慣を幅広く教えてくれました。さらには私に浴衣を着せ、茶会に連れて行ってくれたのです！ その友情ともてなしへの感謝を私は永遠に忘れません。



## 平和活動に向けた計画

日本から帰国後、私は広島での体験をコミュニティの学生や若者と共有するためのイベントの手配に着手しました。今後数カ月で、下記の情報イベントを開催する予定です。

- ・10月末に母校である高校と地元の町の別の高校で、私が広島で学んだこと、核軍縮・不拡散の重要性について講演します。
- ・2017年2月には、出身校のアイランド国立大学ゴールウェイ校で第二次大戦と人道主義の歴史を学んでいる歴史学科の学生に講演を行い、「HIROSHIMA and PEACE」プログラムで得た知見を共有します。
- ・マンチェスター市役所のショーン・モリスと協力し、今後数カ月で同市内およびマンチェスター大学の両方で意識向上イベントを企画します。
- ・10月第1週にはハーグで（GPPAC（Global Partnership for the Prevention of Armed Conflict：武力紛争予防のためのグローバルパートナーシップ（世界的なNGOネットワーク）のインターンとしての立場で）、日本の平和構築団体ピースボートと面会し、軍縮に対する私の見解を参加学生に共有します。
- ・より幅広い一般市民が平和首長会議に興味をもつように、地元および地域の新聞に上記の各活動に関する記事を執筆します。

## 平和首長会議の核兵器廃絶活動に向けた提案

平和首長会議が核軍縮・不拡散を推進できる最も効果的な方法の1つは、被爆者の証言をできる限り広く共有することだと思います。こうした証言は本人が伝達する際に最大の効果を発揮すると思われるため、平和首長会議は被爆者コミュニティのメンバーを引き込み、世界中の加盟都市における会合に参加していただくことを目標にするべきでしょう。平和首長会議の取組を支援するために私が始めようと考えているその他の活動は、以下の通りです。

- ・マンチェスター市役所のショーン・モリスと協力し、より多くのアイランドの地方自治体が平和首長会議に加盟するよう働きかけます。
- ・現在のアイランドの首長およびその他の議員たちと面会し、広島での経験を共有して核軍縮に対する支援活動の拡充を働きかけます。特に不拡散および軍縮に関するアイランドの過去の遺産を重視し、これを土台としてさらなる責任を果たすよう促します。

## 結論

平和首長会議「青少年『平和と交流』支援事業」でのプログラムは、まさに素晴らしい体験であり、決して忘れられないものになりました。広島から帰国し、私は核軍縮・不拡散に

全面的に力を注ぐとともに、自分の時間とエネルギーをこの大義のために自発的に捧げるつもりであり、将来的にこの分野でキャリアを形成したいと考えています。

私は日本のものすべての大ファンになりました。広島への旅を皮切りに、きっと何度も訪問することになるでしょう。この素晴らしい機会に心から感謝します。

